

令和4年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

就労者に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	学校法人 武蔵野大学
事業名	ビジネス日本語研究会の知財を活用した就労者に対する初任日本語教師のための研修普及事業
研修実施地域	6ブロック(北海道/東北、北陸、南関東、東海、近畿、九州/沖縄)
事業実施期間	令和4年9月～令和5年1月
研修受講者数	50名(うち育成研修6名)

研修報告の構成

1. 研修実施機関概要
2. 事業概要（目的・実施体制）
3. 研修の目的・ねらい
 - 3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
 - 3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）
 - 3.3. 研修実施体制
 - 3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報
 - 3.5. 研修の様子
 - 3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）
 - 3.7. 評価
4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）
5. 成果と課題

Ⅰ. 研修実施機関概要

研修実施機関名：学校法人 武蔵野大学

1924 (大正 13 年) 年創立

(1951 (昭和 26 年) 学校法人武蔵野女子学院設立)

【理念】

・仏教精神並びに教育基本法及び学校教育法に従い、有為の女子を育成すると共に男女共同参画社会の実現に資する教育及び幼児教育を行うことを目的とする。(学校法人武蔵野大学寄附行為 第3条)

【主な事業】

・設置する学校：大学、大学院、高等学校、中学校、幼稚園、こども園

【組織】

- ・武蔵野大学・大学院
- ・武蔵野大学中学校・高等学校
- ・武蔵野大学附属千代田高等学院
- ・千代田国際中学校
- ・武蔵野大学附属幼稚園
- ・武蔵野大学附属慈光保育園
- ・武蔵野大学附属有明こども園

・URL：<https://www.musashino-u.ac.jp/>

2. 事業概要(目的)

ビジネス日本語研究会の知財を活用した就労者に対する初任日本語教師のための研修普及事業

- ・現職教員を対象とした**就労者に対する「初任」**研修を行う。
- ・**ビジネス日本語研究会**は「様々な就労者・就労予定者を対象とした日本語教育に特化した」研究と教育実践を10年以上にわたり行いその**知見を蓄積**してきた。研究会幹事の多くは**アジア人材資金**構想において、ビジネス日本語教育のカリキュラム・教材作成に関わり研修講師も担当、その後も継続して勤務校等で技能実習生・ビジネスパーソン・留学生、定住者など多様な就労者への日本語教育を実践/研究し、最新の日本における外国人材受入れ状況ならびに就労日本語のカリキュラム・教材作成、そしてICT活用を含めた研修の実践に熟練した**専門家**である。
- ・本事業では、研究会の知財を活用し文化庁より示された「**就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力**」「**就労者に対する日本語教師【初任】研修の教育内容**」を踏まえ、多様な就労現場の具体的ニーズに沿えるカリキュラム開発（教材作成等を含む）、教育実践、評価・報告までの教育活動を自ら構築できる人材養成を**目的**とした令和2年度の開発事業実践、令和3年度の普及事業実践の成果の積み重ねを活かし、さらに深めた普及事業を行った。

2. 事業概要（実施体制）

取組の内容(ネットワーキング:地域・ステークホルダー・修了生)

- 令和2,3年度のオンライン活用を基本とする研修で国内の広範囲からの参加が確認されたため、本事業では普及事業としてさらに募集範囲を広げ、北海道・東北から九州・沖縄までの**6つのブロック**からの受講生を受け入れた。また、**実習**を核に各ブロックで対面実習を行いブロック毎の課題を探るとともに、**ブロック間/ブロック同士のネットワーキング**を目指した。
- 令和3年度研修修了生が地域の行政や国際交流機関との連携を始めている例もあるように、地域の行政や企業などの**ステークホルダーと連携**を図り就労を希望する留学生や多様な就労者を対象に各現場の課題に対応した教育を提供できる教師を育てる内容の研修を実施。
- あわせて、令和3年度同様研修講師・運営担当者を育成する「**育成研修**」も実施。
- 令和2,3年度の研修修了生が令和3,4年度の育成研修に加わり、令和4年度の講師や事務スタッフとなっているように、ビジネス日本語研究会との連携も図りながら、受講生の**修了後の継続的支援**により事業の発展的継続を図る。修了生による「**修了生の会**」も設立され、自律的に活動が続けている。

2. 事業概要（実施体制）

事業全体の実施体制

- プログラム検討委員会を置き、令和3年度の研修実践を基に、研修内容の改善、並びに普及方法の検討を行った。
- 実施においては、運営会議で図りながら、令和2・3年度研修修了生やビジネス日本語研究会会員の所属する地域の大学・日本語教育機関を拠点に、これまで研修の機会の少なかった地域・領域を含め、行政や企業との連携も図る事業として、受講生を募り研修を実施した。
- 令和2・3年度同様、Google ClassroomをLMSとして活用し、配布資料や課題のやり取り、講師間の連絡、講師と受講生の連絡、受講生同志の連絡を密に行った。併せて研修講師の会議を開催し研修目的が有機的に達成されるよう連携を図った。研修の持続可能性を図るため、次の研修担当講師・運営者の育成にも注力した。
- 外部委員を含めた評価委員会を置き、事業の評価基準を検討のうえ、その基準に沿って評価を行った。

3. 研修の目的、ねらい、研修の特徴

研修の目的、ねらい：ステークホルダーをつなぐ**プラットフォーム**の育成

*プラットフォーム：学習者と企業などをアクティブにつなぐ日本語教師

研修の特徴

- ①この分野の専門家による**理論と実践**を、就労日本語教員には必要であると思われる**アクティブラーニング**で学ぶ(事前・事後課題を含む)。
- ②**ライブオンライン**でどこからでも受講、ICT力も身につける。
BORを頻繁に取り入れ、オンライン懇親会も開催、対面実習実施。
- ③現職教員である受講生の**協働**による**PDCA**を3回繰り返す**実習**では、実践力とともに、相互コメント力、自律学習力も高める。
- ④修了生の会による**学びの継続**(BJ研究会とのコラボ)。
修了生からも講師・スタッフを採用し、研修を実施。

3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

「日本語教育人材の養成研修の在り方について(報告)」に示された資質・能力及び教育内容との対応表
赤字部分が本研修で加えた内容

講師	科目名	就労者に対する日本語教師【初任】研修における教育内容（表16）	資質・能力(表5)		
			知識	技能	態度
堀井	オリエンテーション 就労者に対する日本語教育	オリエンテーション、①人の移動とダイバーシティ、⑤就労者の多様性、言語背景、文化的背景、ニーズの多様性、④就労のための日本語教育の多様性、就労に関わる日本語能力の要件	③	⑤⑧	①⑦
西原	外国人の就労現場の現状・施策	②日本の外国人材受け入れ施策・就労に関わる在留資格、③日本と海外の労働に関する制度の違い、雇用や社会保障に関する制度、メンタルヘルス	①		⑦
近藤	就労者の異文化受容・適応	⑥職場におけるコミュニケーション分析、社会文化的背景と言語・非言語行動、⑬職場コミュニケーションに関する言語間対照	④	⑧	⑧
栗飯原	就労者の多様性、言語背景など	④就労のための日本語教育の多様性、就労に関わる日本語能力の要件 ⑤就労者の多様性、言語背景、文化的背景、ニーズの多様性	⑤	⑦	⑥
久保田	キャリア支援・就労準備	⑪各種指導法 就労準備、就労後の職場適応及び業務遂行のための日本語教育、⑧就労準備、職場における学習者の成長と言語発達	②	②	⑤
品田	コースデザイン演習業種・職種別ニーズ分析	⑩コースデザイン演習、ニーズ分析の手法(対職場関係者、対学習者)、目標設定、職種・職位・対象別日本語教育内容、職場・職位・対象別、カリキュラム	⑤	①⑥⑦	③⑥
向山	コースデザイン演習・デザインの方法	⑩コースデザイン 教材作成	⑥	③	⑥
村澤	就労者のための教材・リソース	⑩コースデザイン 教材作成、⑭就労のための日本語教育教材・教具のリソース	⑥	③	④
藤本	就労のためのeラーニング、ICT オンライン授業実習	⑭就労者のための教材リソースの、通信、eラーニング、ICTツール(SNSなど) 実習	⑤	③	④
栗原	キャリア支援・ インターンシップ	⑦キャリア支援と日本語教育・インターンシップ、⑪各種指導法キャリア形成のためのビジネス日本語教育などの目的別指導法	②	②	⑤
近藤	異文化調整・ケース学習ワークショップ	⑧就労者の異文化受容・適応 異文化間トランス、⑪各種指導法ケース学習、⑮異文化調整力 専門家以外に対する学習効果や日本語教育の必要性の説明	⑤	④⑦	⑧
浅海	職場におけるトラブル 日本人社員への教育・助言	⑨学習動機と就労現場における学習心理、職場におけるトラブル・就労準備、職場における学習者の成長と言語発達	④	⑧	⑤
田中	ネットワーキング	研修終了後のプラットフォームとしての活動例の紹介	⑤⑥	⑦⑧	⑦⑧
倉本	キャリア形成のための目的別指導法	⑪各種指導法、キャリア形成のためのビジネス日本語教育などの目的別指導方法	⑤	⑤⑧	③
堀井	各種指導法	⑪各種指導法 PBL	③		①
堀井他	各種指導法、実習	⑪各種指導法、就労準備、就労後の職場適応及び業務遂行のための日本語教育	③⑥	⑤⑧	①②④
竹田	評価、フィードバック方法、自律学習、内省	⑫評価・報告、評価及びフィードバック方法(対職場関係者、対学習者)、分析的な振り返り、自律学習、経験の振り返りや議論などを通じた内省力の強化	⑦	⑥	④⑧
堀井	振り返りとまとめ: SJ	④就労者に対する日本語教育、ふりかえり	③	⑦	②⑤

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容）

教育方法：赤字のみ対面、その他はオンライン

回	研修実施 スケジュール	教育内容	時間	担当講師	回	研修実施 スケジュール	教育内容	時間	担当講師
育成1	2022年 9月24日	開講式・オリエンテーション	90分	堀井	5	11月5日	就労者の異文化受容・適応	90分	近藤
		研修運営・実習	90分				異文化調整・ケース学習ワークショップ	270分	
		就活・就業支援	90分	久保田	6	11月12日	キャリア支援インターンシップ	90分	栗原
		行政・企業との関係づくり	90分	浅海			評価、フィードバック方法・自律学習・内省	90分	竹田
育成2	10月1日	ICTスキル	90分	藤本			コースデザイン演習 企業内 業種・職種別ニーズ分析	180分	品田
		ファシリテーション・コーディネー ション・ コーチング	90分	近藤	7	11月19日	キャリア形成のための 目的別指導法	180分	倉本
		実習コーディネーション コーチング	180分	品田			実習準備 タスク型学習・ピアチェック	90分	高橋
1	10月8日	開講式・オリエンテーション 実習について・就労者に対する日本語 教育	180分	堀井	8	12月3日	PBL	90分	堀井
		外国人の就労現場の現状・施策	90分	西原			マイクロティーチング	180分	堀井・倉本 栗原・高橋
		コースデザイン演習 業種・職種別ニーズ分析	90分	品田			育成生担当研修	90分	育成生(堀 井)
							ネットワーキング	90分	田中
2	10月15日	就労者の多様性、 言語背景など	90分	栗飯原	9	12月10日/ 12月11日	対面実習	360分	二通、宮崎、 内田、渡邊、 松尾、堀井・ 倉本、栗原・ 高橋
		キャリア支援・就労準備	90分	久保田					
		職場におけるトラブル 日本人社員への教育・助言	180分	浅海					
3	10月22日	コースデザイン演習・デザインの方法	180分	向山	10	12月17日	オンライン実習	180分	堀井・倉本 栗原・高橋
		就労者のための教材・リソース	180分	村澤			振り返り	90分	堀井
							振り返りとまとめ・閉講式	90分	堀井
4	10月29日	就労のためのeラーニング、ICT	180分	藤本	育成3	2023年 1月7日	リフレクション	180分	品田
		オンライン授業実践	180分				まとめ・ふりかえり・閉講式(懇親会)	180分	堀井

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

一般研修 チラシ

■ 文化庁 令和4年度 日本語教育人材の研修プログラム普及事業
ビジネス日本語研究会の知財を活用した就労者に対する初任日本語教師のための研修普及事業

地域の企業と外国人材をつなぐプラットフォーム
「就労者に対する日本語教師」への挑戦

多文化共生社会に向かう今日、就労者に対する日本語教育はその必要性を増してきています。しかし、就労者に対する日本語教師は大変不足しています。今こそ就労日本語教育に取り組んでスキルアップを図るときです。

期 間 2022年10月8日-12月17日 ※(11月26日を除く毎週土曜日)全10回

方 法 ライブ・オンライン（実習の一部以外すべてオンライン）

定員 60名 **6地域** ※書類選考あり 選考結果に係るお問い合わせは一切お答えできませんので、ご了承下さい。

北海道／東北（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）
北陸（福井・石川・富山・新潟）

南関東(埼玉・千葉・東京・神奈川)

東海(愛知・岐阜・静岡・三重)
近畿(滋賀・奈良・和歌山・京都・大阪・兵庫)

九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)/沖縄
※地域は①居住している②所属機関などがある③その他の関係を

申込期間 7月20日(水)～8月31日(水)

受講料 10,000円 ※実習に係る交通費も自己負担

講師 栗原原志宣(日越大学) / 淺野一郎(内定ブリッジ株式会社) / 久保田学(留学生支援ネットワーク)
 金本文子(カイ日本語専門学校) / 栗原由加(神戶学院大学) / 近藤隆(昭和女子大学)
 品田潤子(ベジネスプロセスコミュニケーション研修サービス) / 高橋桂子(武蔵野大学)
 竹田悦子(コミュニケーション学院) / 田中葉見子(株式会社ヨコオ) / 西原鈴子(NPO 日本語教育研究所)
 藤本かほ(武蔵野大学) / 堀井恵子(元武蔵野大学) / 山田陽子(武蔵野大学)
 村澤孝昭(武蔵野大学) 他

一あいうえお調

●●●●● 受 講 資 格 ●●●●●

全てを満たす方

串入方法

応募フォームURL <https://forms.gle/2ttszb4bV7hJcSx16>

またはQRコードよりアクセスしてお申込み下さい。



※お申込みの際、志望理由（500字以上）を忘れずに明記してください。

世界の幸せをカタチにする。



武蔵野大学

お問い合わせ

mub2022s@gmail.com

武蔵野大学 地域交流推進課

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
www.tusashino-u.ac.jp

研修内容 スケジュール

豊富な内容をオンライン中心でコンパクトに開催/
具体的なケースをもとに、実践的に学びます。

目指す
人材

プラットフォーム
これからの日本における就労現場の具体的なニーズに沿ったカリキュラム開発、教育実践、評価までの教育活動を自ら構築できる人材

*対面実習は、各ブロックで開催予定。
*スケジュール・内容は変更となる場合があります。

回	研修日(土)	時間	講師	科目名
1	10月8日	9:00-10:30 10:40-12:10	堀井	開講式・オリエンテーション 実習について 就労者に対する日本語教育
		13:00-14:30	西原	外国人の就労現場の現状・施策
		14:40-16:10	品田	コースデザイン演習 業種・職種別ニーズ分析
2	10月15日	9:00-10:30	栗坂原	就労者の多様性、言語背景など
		10:40-12:10	竹田	評価、フィードバック方法、自律学習・内省
		13:00-14:30 14:40-16:10	浅海	職場におけるトラブル 日本人社員への教育・助言
3	10月22日	9:00-10:30 10:40-12:10	向山	コースデザイン演習・デザインの方法
		13:00-14:30 14:40-16:10	村澤	就労者のための教材・リソース
		9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	藤本	就労のためのeラーニング、ICT オンライン授業実践
5	11月5日	9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	近藤	就労者の異文化受容・適応 異文化調整・ケース学習ワークショップ
		9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	品田	コースデザイン演習 企業内業種・職種別ニーズ分析
		9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	倉本	キャリア形成のための目的別指導法
7	11月19日	9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	高橋	実習準備 タスク型学習
		9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	堀井 倉本 栗原 高橋 他	マイクロティーチング
		9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	田中	ネットワーキング
9	12月10日 または 12月11日(日)	9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	堀井 倉本 栗原 高橋 他	対面実習
		9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	堀井 倉本 栗原 高橋 他	オンライン実習
		9:00-10:30 10:40-12:10 13:00-14:30 14:40-16:10	堀井	実習の振り返り 振り返りとまとめ・閉講式

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

育成研修 チラシ

文化庁 令和4年度 日本語教育人材の研修プログラム普及事業
ビジネス日本語研究会の知財を活用した就労者に対する初任日本語教師のための研修普及事業

「就労者に対する日本語教師」 研修運営担当者〔講師を含む〕への挑戦

育 成 研 修

多文化共生社会に向かう今日、就労者に対する日本語教師が不足しています。就労教師研修の研修運営の方法を身につけて就労者に対する日本語教師を増やしながら、自らも一回りステップアップしませんか。

期 間 2022年9月24日～2023年1月7日
※(11月26日を除く毎週土曜日) 全13回

内 容 ①一般研修の前に2回、後に1回、研修運営のための育成研修を受けることができる。
②育成研修に基づき、一般研修を受講し理解しながら、必要に応じて講師のアシスタントをしたり受講生へのアドバイスをすることを通して運営方法について身につける。

方 法 ライブ・オンライン (実習の一部以外すべてオンライン)

定 員 5～8名
※各地域(地域については一般研修チラシで確認ください)から1、2名、選考あり

申込期間 7月20日(水)～8月31日(水)

受講料 無料 ※研修アシスタント時には内容に応じて謝金が出ます。
※実習に係る交通費については自己負担

受講資格

日本語教員の資格を持ち、初級・中級・上級のすべての教授経験者
受講に必要なオンライン環境を整えることができる方
就労者のための日本語教師の研修運営に携わろうとする方

申込方法

応募フォームURL <https://forms.gle/5A8LH2wLyP5NolFn7>
またはQRコードよりアクセスしてお申し込み下さい。

※お申込みの際、希望理由(500字以上)を忘れずに明記してください。

世界の幸せをカタチにする。

武蔵野大学
Musashino University

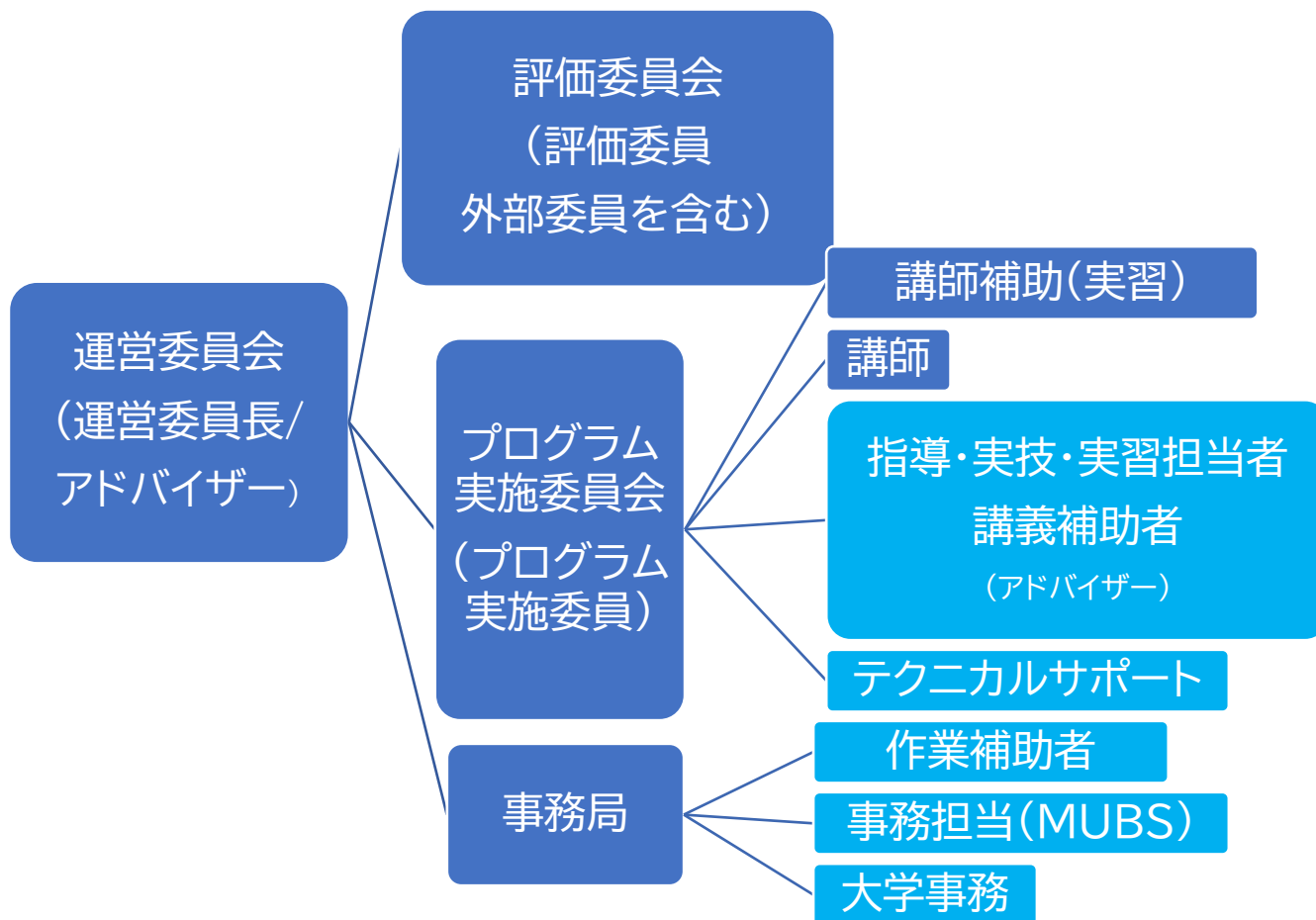
お問い合わせ
mub2022s@gmail.com
武蔵野大学 地域交流推進課
〒202-0345 東京都武蔵野市
www.musashino-u.ac.jp

■ 研修内容スケジュール

回	研修日(土)	時間	講師	科目名	回	研修日(土)	時間	講師	科目名
育成研修	9月24日	9:00-10:30	堀井	開講式・オリエンテーション	5	11月5日	9:00-10:30	近藤	就労者の異文化受容・適応
		10:40-12:10		研修運営・実習			10:40-12:10		
		13:00-14:30	久保田	就活・就業支援			13:00-14:30		異文化調整・ケース学習 ワークショップ
		14:40-16:10	浅海	行政・企業との関係づくり			14:40-16:10		
育成研修	10月1日	9:00-10:30	藤本	ICTスキル	6	11月12日	9:00-10:30	栗原	キャリア支援 インターンシップ
		10:40-12:10	近藤	ファシリテーション・ コーディネート・ コーチング			10:40-12:10	久保田	キャリア支援・就労準備
		13:00-14:30	品田	実習コーディネート コーチング			13:00-14:30	品田	コースデザイン演習 企業内 業種・職種別ニーズ分析
		14:40-16:10					14:40-16:10		
1	10月8日	9:00-10:30	堀井	開講式・オリエンテーション 実習について	7	11月19日	9:00-10:30	倉本	キャリア形成のための目的別 指導法
		10:40-12:10		就労者に対する日本語教育			10:40-12:10		
		13:00-14:30	西原	外国人の就労現場の現状・ 施策			13:00-14:30	高橋	実習準備 タスク型学習
		14:40-16:10	品田	コースデザイン演習 業種・職種別ニーズ分析			14:40-16:10	堀井 倉本 栗原 高橋	PBL
2	10月15日	9:00-10:30	栗原	就労者の多様性、言語背景 など	8	12月3日	9:00-10:30	堀井	マイクロティーチング
		10:40-12:10	竹田	評価、フィードバック方法 自律学習・内省			10:40-12:10	倉本	
		13:00-14:30	浅海	職場におけるトラブル 日本人社員への教育・助言			13:00-14:30	栗原	
		14:40-16:10					14:40-16:10	高橋	
3	10月22日	9:00-10:30	向山	コースデザイン演習・デザ インの方法	9	12月10日 または 12月11日 (日)	9:00-10:30	堀井	対面実習
		10:40-12:10	村澤	就労者のための教材・ リソース			10:40-12:10	倉本	
		13:00-14:30					13:00-14:30	栗原	
		14:40-16:10	藤本	就労のためのeラーニング、 ICT			14:40-16:10	高橋	
4	10月29日	9:00-10:30	藤本	就労のためのeラーニング、 ICT	10	12月17日	9:00-10:30	堀井	オンライン実習
		10:40-12:10					10:40-12:10	倉本	
		13:00-14:30					13:00-14:30	栗原	
		14:40-16:10					14:40-16:10	高橋	
育成研修	1月7日	9:00-10:30	堀井	オンライン授業実践	育成研修	1月7日	9:00-10:30	品田	リフレクション
		10:40-12:10					10:40-12:10		
		13:00-14:30					13:00-14:30		
		14:40-16:10					14:40-16:10		
育成研修	1月7日	9:00-10:30	堀井	まとめ・振り返り・ 閉講式(懇親会)	育成研修	1月7日	9:00-10:30	品田	リフレクション
		10:40-12:10					10:40-12:10		
		13:00-14:30					13:00-14:30		
		14:40-16:10					14:40-16:10		

*対面実習は、各ブロックで開催予定。
*スケジュール・内容は変更となる場合があります。

3.3. 研修実施体制



3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

1. 募集

募集方法:チラシを作成、武蔵野大学HP、ビジネス日本語研究会HP/MLで募集

期間:2022年7月30日ー8月31日

広報:日本語教育学会、日本語教育振興協会、都道府県国際交流協会、出版社、修了生の会など

2. 応募と選考:

応募条件:日本語教師の資格、日本語の初級・中級・上級すべての教授経験、オンライン受講環境を有する者。

応募者数:一般受講生:52名、育成受講生:10名

選考方法:5名の選考委員により、応募書類で条件確認後、志望理由(500字以上)を読んで選考。

3. 受講者

人数:一般研修:47名うち開始直後に3名辞退で44名となる。

育成研修:6名

応募者の属性、年齢:スライド14参照

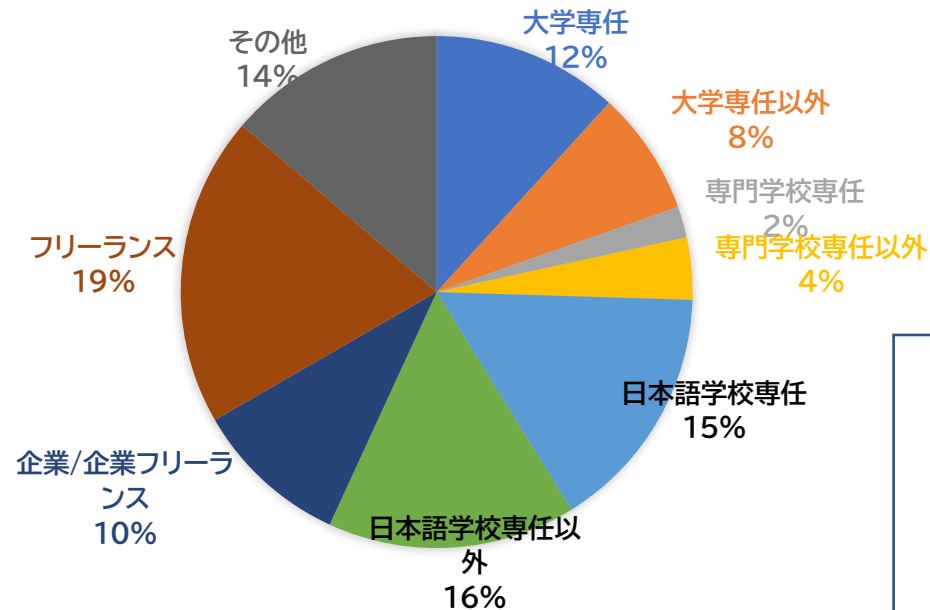
4. 研修修了者数

修了者数:一般研修44名、育成研修6名

修了要件:①出席率 90%、②課題提出を含んだ成績平均B以上、③研修後課題提出

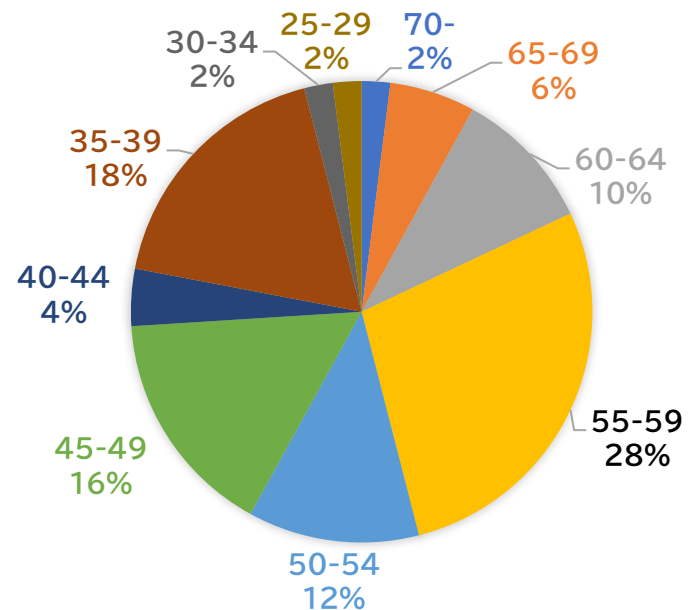
応募者の所属・年齢の分布

応募者の所属の分布



- ・応募者の属性では、多い順に、フリーランス、日本語学校専任以外、日本語学校専任、大学専任、企業/フリーランスであった。
- ・年齢は、多い順に、55-59、35-39、45-49、50-54であった。

応募者の年齢分布



3.5. 研修の様子

*研修は対面実習1日以外はオンラインで行われた。ライブオンでグループワークが頻繁に取り入れられた。

1. 開講式の後、オリエンテーションでいかがが説明された。

①仲間づくりの勧め、②本事業のコンセプト:文化庁事業について、③本研修のコンセプト
④就労者に対する日本語(SJ)教育とは、⑤研修のゴール、⑥スケジュール、⑦実習について、
⑧修了要件、研修の方法、Google classroomの活用について⑨課題提出について、
著作権について、⑩講師・スタッフについて

2. 各研修は提出された事前課題を糸口に、担当講師によるアクティブラーニングによる授業、そして、振り返りを含めた事後課題で構成された。

3. 後半にマイクロティーチング、対面実習、オンライン実習を行った。実施のために、研修時間外にチームで授業案を練り、協働を深めた。

4. 対面実習は6地域で学習者役外国人を迎えて行われた。対面実習後、懇親会が開催された地域も多かった。

5. 研修中、また研修最終日にオンラインによる懇親会が育成生によって開催され、ネットワーキングが進められた。

6. 最終日には研修のよる学びの振り返りを行い、閉講式、そして、学びの継続のための修了生の会やビジネス日本語研究会の活動が紹介された。

*受講生は各自の仕事をしながらであったが、大変熱心に受講をしていたものが多かった。

3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等

研修前課題：

・事後との変容を確認する研修内容理解に関する自己評価アンケート、SJ指導者Can-do実施でSJ教育への意識化を行う。研修に望むことなどの記述課題で受講動機を意識化する。

研修中のフォロー体制：

- ・各科目の事前課題・事後課題で受講生の理解を促進し、理解状況を把握。
- ・質問は研修内で頻繁に受け付け、研修後もメールで受け付け、対応。
- ・実習についてはPadletで受講生同士、講師が進捗を確認、グループ毎の相談にも対応。

受講生間のネットワーキングの工夫：

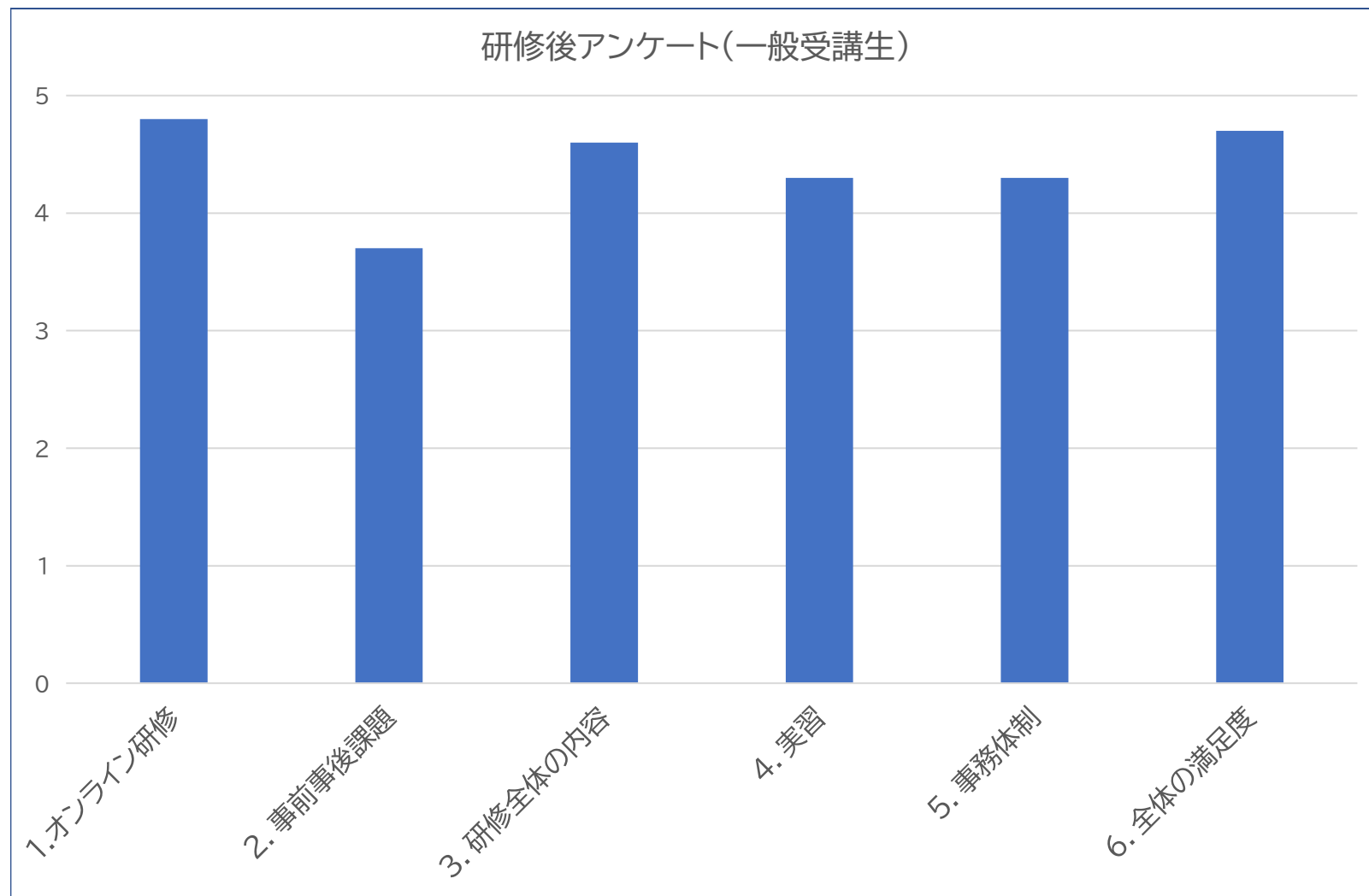
- ・育成生による懇親会を研修中に2回開催、ネットワーキングを促す。
- ・協働によるオンライン実習・対面実習の準備、本番のプロセスでネットワーキングを促す。
- ・修了生が講師となって「ネットワーキング」の科目を担当し、修了後の活動を紹介。

過去の研修修了者に対するフォローアップ：

- ・令和2年度、3年度、4年度の修了生が自律的に「修了生の会」を設立したので、定期的に開催している勉強会の支援、連携をビジネス日本語研究会で行っている。
- ・修了生を次の年の講師や事務スタッフとして採用、支援をする。
- ・研究活動支援として、ビジネス日本語研究会における発表への声掛けも行い、毎年、修了生が口頭発表を行ったり、ジャーナルへの投稿者もいる。

3.7. 評価 研修評価:研修後アンケート

※研修の評価の方法:アンケート 5段階+記述(令和2年度から同じ項目)



3.7. 評価：研修評価 アンケート記述から

- ・ 5段階で、全体の満足度が4.7であることから、受講生にとっては、満足度の高い研修であったと考えられる。

1. オンライン研修だったことについて：4.8

- ・ 現職で子育てや介護もある中、土曜日のオンラインということで受講ができた、海外を含む様々な地域からも受講ができた、また、カメラオン必須、ALで、BORの頻度も高かったため協働学習による学びの深まり、併せて、Google, PadletなどICTを実践することでその能力も高まったという記述が多くありました。

2. 事前事後課題について：3.7

- ・ 大変だったが学びに役に立ったという記述とともに、当初システムの設定で課題が届いたかの確認がしづらかったことなどから、今後のLMS利用の改善点も把握できた。

3. 研修内容について：4.6

- ・ 最前線で活躍している講師陣による研修だったこと、実習があったこと、ALであったことで気づきが多かったこと、すでに一部の授業で活かしているなどの記述があった。

3.7. 評価：研修評価 アンケートから

4. 実習について：4.3

・北海道・東北から九州・沖縄地域までの6ブロックによる対面実習では各地域のキーパーソンとの連携実現に運営側としてもいろいろ苦勞をしたが、現職教員には実習の機会がほとんどないこと、協働でのALによるSJ実習の試みは、気づきの多いものとなったことが記述からわかる。

・本研修は就労者に対する初任研修なので、これでSJ教師が仕上がるというものではなく、今後は各自が腕を磨き、専門性の高いSJ教師となるための教師の自律学習力が必要であるため、それが養成されつつあることも確認できた。

5. 事務について4.3

テクニカルサポートを含め、感謝を述べる声が多かった。

3.7. 評価：受講生の変容

※研修の評価：研修の各科目にそった以下の項目の理解度を5段階で受講生が自己評価
研修前と研修後の理解度の差が学習者の変容と考えられる。

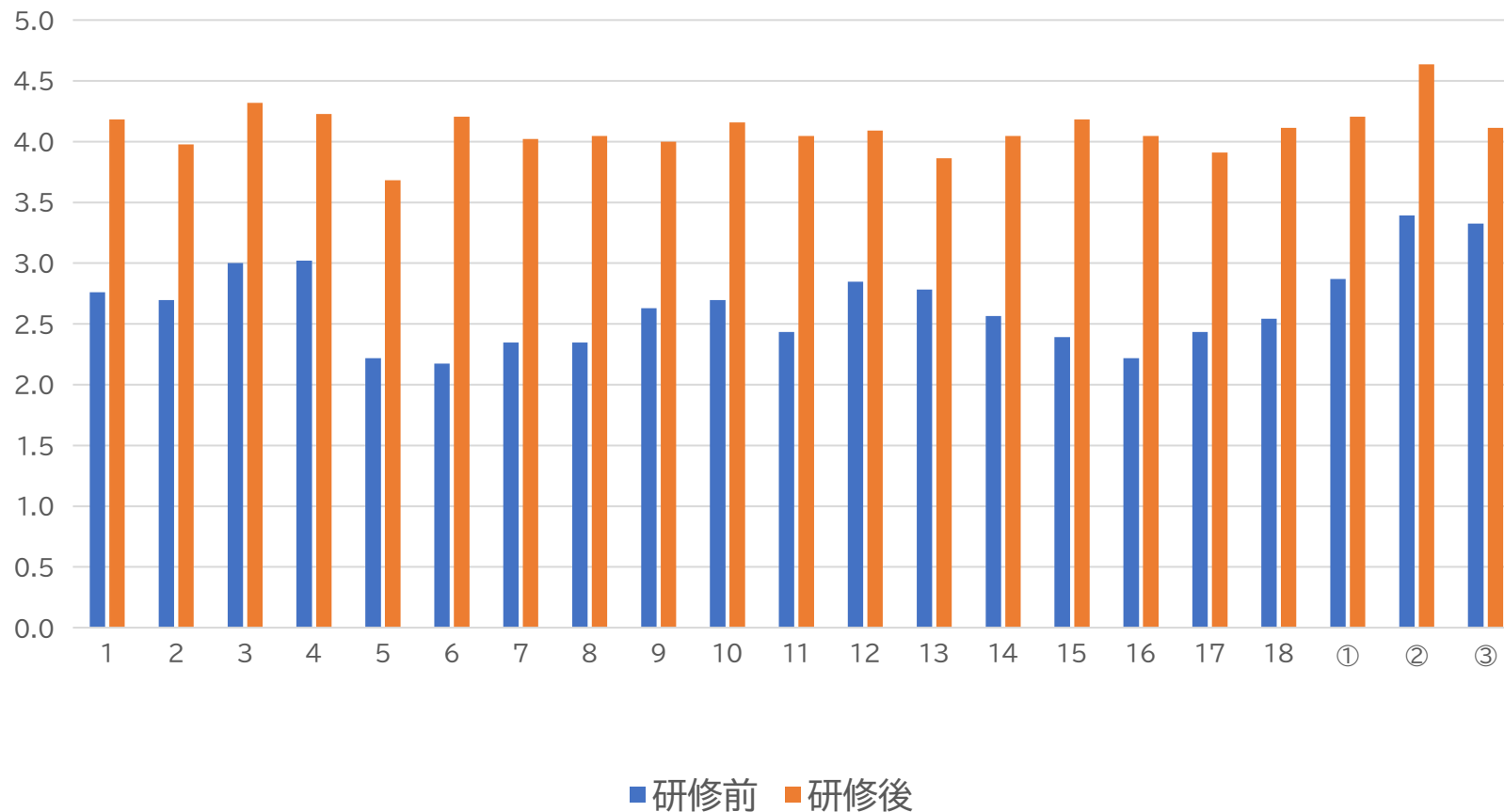
【アンケート項目】

1. 就労者に対する日本語教育の在り方・概要について理解できる
2. 外国人の就労現場の現状・施策について理解できる
3. 就労者の異文化受容・適応の課題について理解できる
4. 就労者の多様性、言語背景について理解できる
5. 業種・職種別ニーズ分析ができ、それに基づいて日本語教育・研修の目標設定ができる
6. 就労者に対する日本語教育のコースデザインの立て方が理解できる
7. 就労者の多様性に対応した教材・リソースについて理解ができる
8. 就労者のためのeラーニングについて理解ができる
9. 就労者のためのオンライン授業が実施できる
10. 就労者のキャリア支援について理解ができる
11. 就労者のためのケース学習について理解し、実践することができる
12. 就労現場におけるトラブルについて理解できる
13. 就労者と共に働く日本人社員に対する助言・研修ができる
14. 就労者のための目的別指導法が理解できる
15. 就労者のためのプロジェクト型学習について理解ができる
16. 就労者のためのタスクを用いたアクティブラーニングの授業実践ができる
17. 就労者に対する日本語教育・研修の評価について理解ができる
18. 就労者の自律学習・内省について理解ができる
- ①職場をはじめとする関係者と円滑に協力し、共に効果的に日本語教育プログラムを実践しようとする
- ②就労に関わるステークホルダー（企業自治体など）と連携することの重要性が理解できる
- ③必ずしも同じ考え方ではない人と粘り強く関係を構築しようとしたり、交渉したりしようとする

3.7. 評価

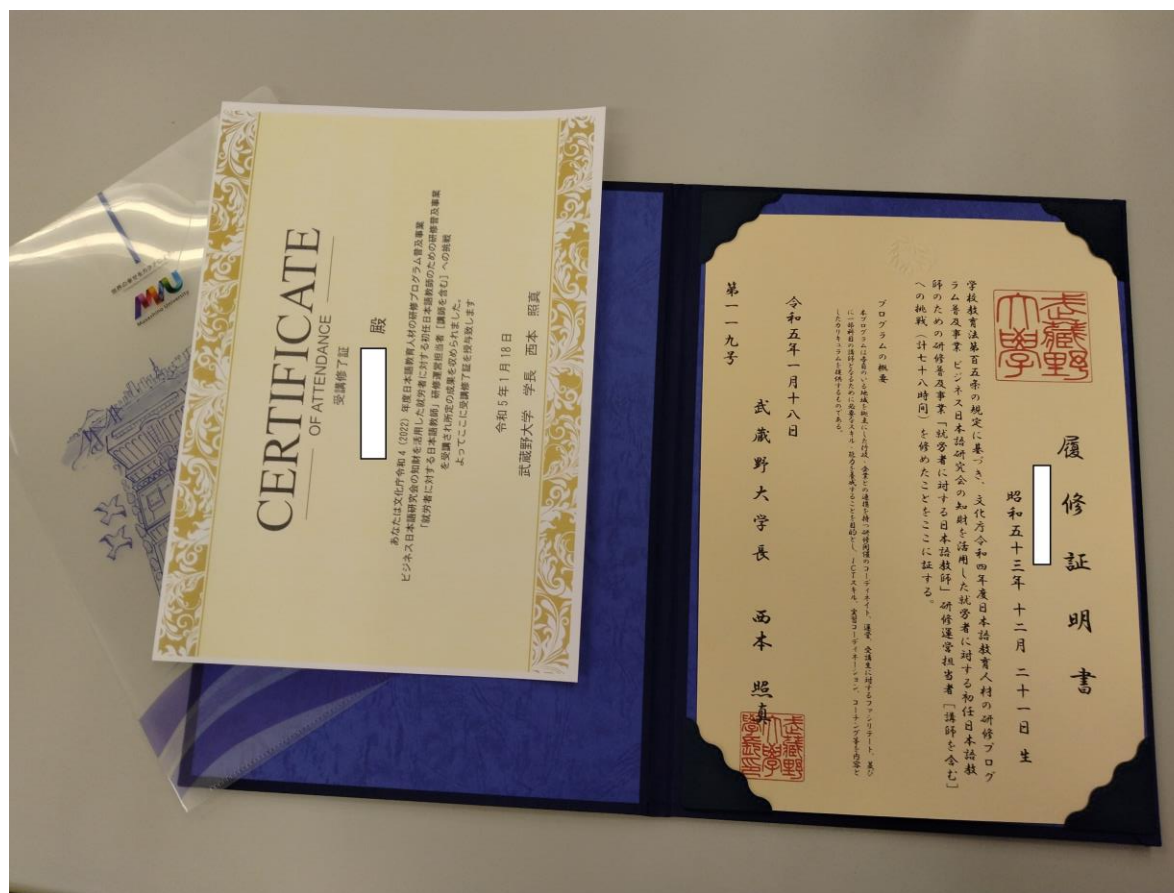
研修前後の理解度の変容:一般受講生44名:全ての項目で理解度が高まっている
とくに、6のコースデザイン、16のアクティブラーニングによる授業実践の幅が大きい。

研修前後アンケート結果
*横軸の番号は前頁の項目番号



3.7. 修了証

文化庁研修修了証と合わせて、
武蔵野大学の履修証明書も授与



4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法）

事業評価の実施体制:外部委員を含めた評価委員会において評価基準に沿って検討

評価の観点:本事業が「研修普及事業」として、事業の目的に合致した成果を得られたかどうかを全体的に評価するために、以下の項目、指標を設定した。

大項目	中項目	小項目	指標	備考
事業の効率性	採算性	実施経費	予算－経費	数値： 金額
		受講者負担	予算－受講料	数値： 金額
普及性	研修内容の 妥当性	社会的ニーズ対応	現状との対比	
		公益性、一般性	研修内容の妥当性・汎用度	
		研修時間	研修内容／時間	数値：
		研修効果	受講者の変容・満足度	アンケート
	事業の 社会性	事業の認知度	地域行政、教育機関、企業に 関連する人材の 研修参加度	数値： 人数
	事業の 継続性	地域普及の条件	教材整備計画 講師確保計画 育成参加者のキャリアプラン	

4. 事業評価概要（検証結果）

評価委員会による評価結果より

- 総合評価A（十分な成果が上げられたと評価する）

日本語教育人材の不足に対し、今回の研修はどのような効果を及ぼしたか

- コロナ禍に改善の兆しが見られたことや、これまでの知見・技法を生かして、オンラインでの全体研修と、各地域での対面実習を組み合わせたことは、相応の成果を得たものと評価できる。また、多様な属性を持つ参加者が熱心に参加した様子も、今後のこの分野の展開において期待を抱かせるものであった。

首都圏以外の地域における活動分野別の研修実施機関・団体及び講師の不足に対し、どのような効果を及ぼしたか。

- 今回は、南関東、近畿のみならず、北海道・東北、北陸、東海、九州・沖縄ブロックからの参加者を得、実習も各地域拠点で行うことができた。また、受講生それぞれが自身の変容を感じ、満足度を持って研修を終えた様子が窺える。昨年度の課題であった受講生同士のつながりについても、「修了生の会」の立ち上げや勉強会の開催、「ビジネス日本語研究会」への入会など、そのネットワークが着実に広がっている点は高く評価できる。また、修了生が本事業のスタッフに加わっていることも、循環型の継続体制の構築へ動き出した証と捉えることができる。したがって、本年度の本事業は、昨年度の課題を改善した、十分に評価できる内容であったと結論づけることができよう。さらに、今後は企業が参画できるようなきっかけや枠組み・仕組み作りが検討されることを期待したい。

5. 成果と課題

※本年度事業の成果・効果

- ・「就労の各分野で外国人材に対する日本語教育の需要が増しているが日本語教師の育成が追いついていない」という指摘に対し、業務遂行のための実践的な日本語能力を育成できる日本語教師の研修として次につながる3年間の積み重ねができた。
- ・開始直後に家庭の事情などで辞退した3名を除き受講生44名、育成研修受講生6名全員が、これまで同様の仕事をしながら修了要件を満たし、修了証を得ることができた。
- ・すべての科目に対する理解度の自己評価が研修前に比べ研修後に高くなっている。研修後アンケートから、受講生にとって満足度の高い研修であったことがわかる。

※事業実施により見えてきた課題と、その課題解決のために今後取り組むべき事項

- ・3年間の事業実施により、課題の核心である企業との接点として、外部評価委員との協働企画を検討。
- ・各地域から受講生を集める方法について、日本語学校との連携を深める。
- ・実習の準備に時間がかかったので実習のグランドデザインを早めに立てる。
- ・ビジネス日本語研究会において、令和4年度文化庁事業「就労者に対する日本語【初任】研修」を受託している3団体の担当者と連携をしたパネルが実施できたことは、「就労者に対する日本語教師」の質と専門性を協働で高める上で大きな一歩となったと考える。

参考資料

- ・ 文化審議会国語分科会(2018)「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版